

# 出雲圏域プロジェクト全体評価及び成果指標の達成状況(平成26年度)

NO	プロジェクト	全体評価(総括・検証)	成果指標と達成率			
			項目名	H26目標	H26実績	達成率
出雲-1	「出雲」産品の出荷システム構築プロジェクト	<ul style="list-style-type: none"> <li>・県内外での販売促進により出雲の特産品のPR、認知度向上を図っている。また今年度初めて、山陽地区での出雲フェアを開催した。</li> <li>・県下1JAも見据え近隣JAとの意見交換を実施し、共同販売によるロットの確保等への模索が進んでいる。</li> <li>・ぶどうリース団地への入植者7名が決定し、産地再生に向けて順調に取り組まれ、平田の柿でも産地の団地化に向けて、関係機関が中心となった柿産地再生プロジェクトが立ち上がり、団地候補先を検討しているところである。</li> <li>・長期安定出荷では、各種特産品の品種、栽培試験等を進めており、諸課題を整理して、技術確立に取り組んでいる。</li> </ul>	特産品販売高(百万円)	2,363百万円	2,089百万円	88%
			出荷期間1ヶ月延長品目の品目数	2品目	1品目	50%
			加工品開発品目数	3品目 (2品目)	3品目	100%
			新商品開発品目数	1品目	2品目	200%
出雲-2	水田利用高度化プロジェクト	<ul style="list-style-type: none"> <li>・新たに「キャベツ」に取り組む集落営農組織、水稻育苗ハウスを利用した「青ねぎ」栽培に取り組む経営体を確保、また加工業務用キャベツの面積拡大が図られた。一方、高齢化で取り組む品目を減らした集落営農組織もあり、特に重量野菜の「キャベツ」、「玉葱」の推進方法の検討が必要である。</li> <li>・H26年産つや姫栽培は、生産拡大が図れているが、日照不足による収量・品質への影響が出ており、気象条件に左右されない栽培技術の確立、生産者毎の栽培技術の平準化が必要である。</li> <li>・加工品開発したハトムギペットボトルは、関東・関西圏域の高級スーパーへ販路を拡大し、夏場に向け順調に販売できた。更にハトムギやひまわりを使用した新商品開発を進めている。</li> <li>・トルコギョウでは、他JAと連携した関東市場へのフライト便出荷が始まり、青ねぎではH27年度からの他JAとの共同出荷に向けて、関係機関により検討している。</li> </ul>	水田利用高度化作付体系モデル実践経営体数	8	9	113%
			集落営農・担い手への園芸作物の導入数(取扱園芸品目の拡大)	55	48	87%
			斐川町の農業産出額(億円)	32.4	27.1	84%
出雲-3	耕畜連携による夢とロマンのある「いずも型畜産」の確立プロジェクト	<ul style="list-style-type: none"> <li>・H26年産WCS飼料の作付け面積は、昨年を上回る約89haを確保出来ており、更なる生産拡大にあたっては、酪農家以外の繁殖牛農家へ供給出来る仕組みづくりの検討が必要である。</li> <li>・飼料用米の栽培面積は、H26年度目標を上回る355haとなる見込みだが、更なる生産拡大には保管施設の整備が必要である。</li> <li>・「まい米牛」肉の試食求評会を開催し、農場毎の品質の課題点等を整理したので、更に品質安定と枝肉量の増加を図る給与メニューの検討が必要である。</li> <li>・県内消費者に向けて、「まい米牛」、「こめたまご」のPR用のパンフレット作成・配布、スーパーでの販売促進等を実施した。</li> </ul>	飼料用米栽培面積拡大(ha)	340	356	105%
			WCSの栽培面積拡大(ha)	100	89	89%
			まい米牛の生産拡大(頭)	200	200	100%
			米育ち牛乳の生産拡大(t)	300	445	148%
			こめたまごの生産拡大(t)	3495	2750	79%
出雲-4	新たな担い手育成プロジェクト	<ul style="list-style-type: none"> <li>・H26年度のぶどうリースハウスを活用した入植者7名が決定。リースハウス活用により、ぶどう産地の維持、新規就農者の農業参入コストの低減を図ることが出来た。</li> <li>・新規就農者の認定制度の変更があり、H26年度の認定数は2人だった。</li> <li>・昨年度はJAいずも登録の農業サポーター1名、ハローワークへ求人あった1名をぶどう生産者2戸へ派遣出来た。今年度はいちじく組合の実態調査や、新規就農者の要望から農業サポーターのあり方、農福連携事業の活用も含めた検討を行っている。</li> </ul>	年間認定就農者数(人)	6	2	33%
			農業生産法人(設立)数累計	50	77	154%
			農業サポーター年間派遣農家数(戸)	0	0	0%
出雲-5	安心・安全・環境調和の農業推進プロジェクト	<ul style="list-style-type: none"> <li>・環境保全型農業の推進は、環境保全型農業直接支払交付金及び特別栽培米の取り組み面積が目標に近づきつつあり、一定の成果が出ている。</li> <li>・また、つや姫の荷受け体制確立のため、現在JAカンントリーエレベーター等の整備を行っており、更なる面積拡大が期待される。</li> <li>・3法人がエコファーマーの新規認定を受けているが、エコファーマー認定の拡大に向けて、組織化や情報交換の場を設ける等、県・市一体となった取り組みが必要である。</li> </ul>	環境保全型農業直接支払制度の取組面積(ha)	180	186	103%
			特別栽培米の作付面積(ha)	385	385	100%